

大原社会問題研究所五十年史

II 創立当初〔一九一九～二二年〕

読書会の開催

この年の秋より、主として労働者を対象とする社会問題研究読書会が、森戸氏の提案にもとづき、開かれることになった。読書会は大阪と東京の両地で、一般労働者約三、四〇名を対象として、毎週一回ずつ三〇回をもって一期とし、二組にわけて行われた(会費一円)。大阪では二組の第一回読書会が一〇月八日研究所の一室で、出席者約四〇名、高野氏を講師として開かれた。テキストはブレンターノ著森戸辰男訳『労働者問題』であった。一組は一三日ウェブ著文明協会訳『防貧策』を高田慎吾氏が解説した。東京の読書会は次の通りである。

一組 一〇月七日より、北沢新次郎氏、G・D・H・コール *Labour in Commonwealth*.

二組 一〇月七日より(婦人に限る)、森戸辰男氏、J・S・ミル著大内兵衛訳『婦人解放論』
Subjection of Woman.

さきに評議員会で決定された櫛田、久留間両氏の海外派遣もこの秋には実現し、一〇月二九日両氏は神戸港を出航し、ヨーロッパに向った。櫛田氏は主としてドイツに、久留間氏はイギリスに滞在して研究と図書蒐集に当たったのである。両氏の携行した図書蒐集費(図書費、旅費を含む)は四万五千円であった。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)